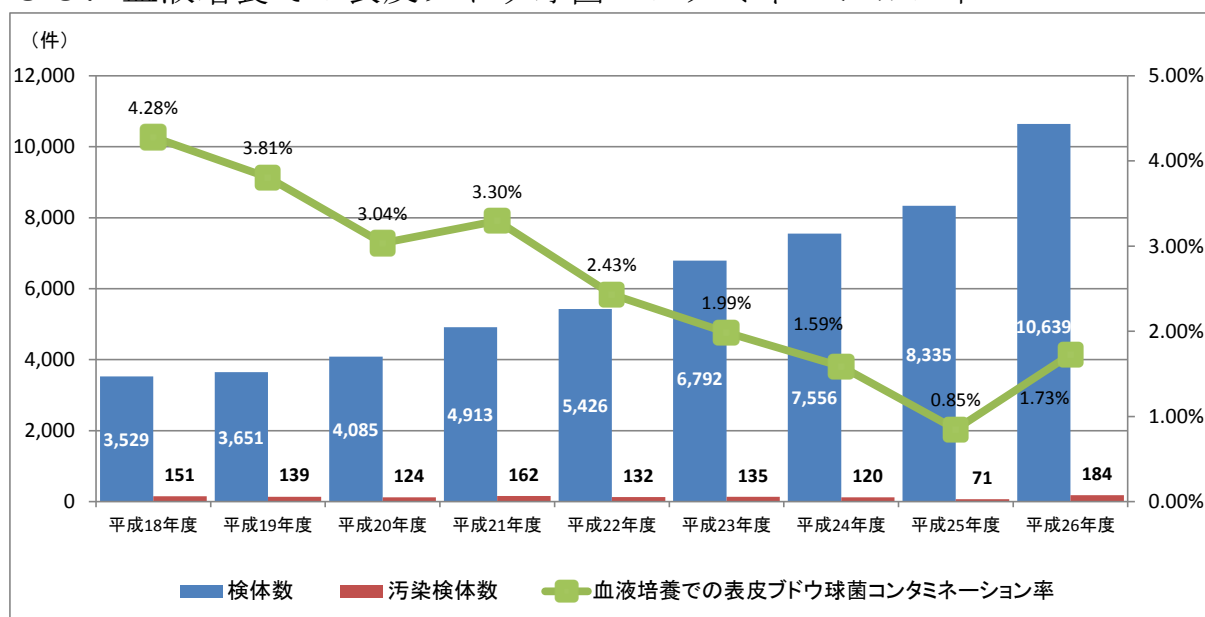


8.3. 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率



血液培養検査は、敗血症(菌血症)の原因菌を特定するなど、診断において重要な検査項目である。血液培養検査の採血は通常、経皮穿刺にて採取することが多く、採血時に皮膚に存在する常在菌などを混入させてしまうと、本来の敗血症の起炎菌とは別な菌での感染症と誤診されてしまう可能性がある。

当院におけるコンタミネーションの割合は、年々減少傾向にあり、全体の2%以下を維持し適切な採取方法が厳守される証と思われる。

血液培養のテキストにおいてもコンタミネーション率は、2%以内が適切であるとされており、これと比較しても現在のコンタミネーション率は低い値であり信頼できる結果を提供できていると考えられる。

データ提供 臨床検査部